

令和3年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県央会場

科目 ⑫学校・地域との連携

- ◆ コミュニティ・スクールの機能の中で、地域の方が学校の校長に意見を言うことができるということを知った。コロナが拡大する前は学校開放日があり、地域の方も自由に学校に入る機会があったが、今はそれができないので、学校の実態を目で見て直接意見を言うことが難しくなっているのではないかと感じた。また、地域コーディネーターの先生は日頃から悩みを聞いてくださり助かっているのも、連携の重要性を実感している。
- ◆ 普段何気なく聞いていた「推進員」、「放課後子供教室」等の内容や目的を分かりやすく説明していただいた。理解が深まることにより学校、地域との連携の大切さを感じ、職場内で早速話題にしてみた。私が勤務する自治体では幼保連携型認定こども園、義務教育学校に集約されているため地域も昔ながらのつながりが深い。子どもたちの健やかな成長のため、相互の連携をより深めていけるよう努力していきたい。
- ◆ 学校との連携を考えたとき、子どもの生活の連続性を配慮し、学校生活から放課後の生活の時間へのスムーズな移行が大切であることを学びました。そして、児童クラブで支援員が待っていてくれるという安心感で心の安定があるのだと実感もわいてきました。新・放課後子ども総合プランにおける一体型により、地域や家庭、学校との連携が子どもたち一人ひとりにとって大切なことであるということも学ばせていただきました。
- ◆ 今、学校が抱える課題は複雑化、困難化を極めており、地域と学校が一体となって子どもたちを育んでいかなければならないということが分かった。私が勤務している児童クラブは、こども園と併設されており、学校や児童センターとの連携は取れているが、地域コーディネーターの役割を理解したので、コーディネーターの力を借りながら、さらに学校との連携を深め、子どもたちを育んでいきたいと思う。
- ◆ 児童クラブと学校の連携は本当に大事だと思う。特に、利用児童の様子については情報交換できたら見守りのときに役立てることができる。しかし、実際は難しいように思う。学校も児童クラブも守秘義務がどこまで適用されるか分からず、名前を出さずに話をしたりする。保護者からもアレルギー等の話がなされず、何かあってから「アレルギーで…」と保護者から言われることもある。根本的なところから「連携」を考える必要性を感じた。